

ハイキング部だより



第206回

令和3年(2021年)4月3日(土)～岡崎川の桜と安堵の田園風景を歩く

コース:法隆寺駅～飽波神社～安堵町文化観光館～うぶすなの郷～極楽寺～
安堵町歴史民俗資料館～岡崎川の桜～中家住宅～馬場塚～
かかし公園～桜の堤～安堵中央公園～法隆寺駅(約10キロ)

参加者 12名



4月3日(土)曇のち晴 参加者12名で第206回ハイキングを実施しました。10時JR法隆寺駅スタート。天理軽便鉄道は戦前利用されていたミニ鉄道で、当時は法隆寺から天理の間を蒸気機関車が走っていました。その線路跡と思われるところを歩いて富雄川にかかる鉄橋を渡りまず飽波神社へ、ここは安堵町の総鎮守社でスサノオノミコトが祀られています。文化観光館(本日休館)、富本憲吉記念館(うぶすなの郷)を見て安堵町歴史民俗資料館へ、藺草(いぐさ)から引き出された灯芯は和ろうそくの芯として使われます。その灯芯関係の資料や農耕器具などが展示されていました。子供のころ手にしたものと見たものが沢山あり、皆んなで思い出を語り合いながら懐かしく拝見しました。

次に聖徳太子創建と伝えられる極楽寺へ寄りさらに西名阪自動車道をくぐり岡崎川の堤防に出ました。桜を見ながら川沿いに歩いて中家住宅へ、中家は古くは足立氏と称し足利尊氏に従って大和に入り中氏と改めました。二重の濠を巡らせた環濠住宅が残っています。予約制なので入館できず外から覗くだけとなりました。かかし公園は飛鳥時代に太子が斑鳩から飛鳥まで行き来したとされる太子道沿いにあり高さ12mの太子の像が法隆寺の方向を向いて立っていました。そのあと再び岡崎川に戻り桜並木を見たあと安堵中央公園で昼食をとりました。昼食後桜をバックに写真を撮り川沿いに歩いて最初の法隆寺駅に戻りここで解散しました。岡崎川の桜はすでに満開を過ぎて散り始めたところでした。





岡崎川の桜



安堵(あんど)中央公園



飽波(あくなみ)神社



飽波神社



飽波神社



安堵町文化観光館



うぶすなの郷



極楽寺(ごくらくじ)



安堵町歴史民俗資料館



安堵町歴史民俗資料館



安堵町歴史民俗資料館



中家(なかけ)住宅



馬場塚(ばばづか)



杵築(きつき)神社



高さ12mの太子の像



富雄川を渡る



集合場所の法隆寺駅



本日のコース説明



天理軽便鉄道跡を歩く



かかし公園



かかし公園



かかし公園



安堵中央公園



安堵中央公園



岡崎川の桜



岡崎川の桜



岡崎川の桜



法隆寺駅へ

第206回ハイキングは下記の計画で実施しました

～ 岡崎川の桜と安堵の田園風景を歩く ～

日 時： 令和3年4月3日(土) 10時 大和路線「JR法隆寺駅」集合

コース：法隆寺駅～飽波神社～文化観光館～うぶすなの郷～極楽寺～
安堵町歴史民俗資料館～岡崎川の桜～中家住宅～馬場塚～
かかし公園～桜の堤～安堵中央公園～法隆寺駅(約10キロ)

今回は、奈良県安堵町の岡崎川堤防に咲く約110本の桜並木と田園風景を歩きます。安堵町は、世界遺産・法隆寺の南東に位置する町です。江戸時代中期ごろから灯芯用の藺草(いぐさ)が栽培されていました。現在では寺院の灯明用や和ろうそくの芯などの需要が主要となっています。安堵町歴史民俗資料館は、代々庄屋を務めていた今村家の土地、建物が安堵町に寄贈され平成5年に一般公開されました。灯芯関係の資料や農耕関係の器具などが展示されています。

飽波神社(あくなみじんじゃ)は、聖徳太子の飽波宮跡と伝えられ祭神はスサノオの命です。安堵町には太子が斑鳩宮から飛鳥まで通ったとされる太子道があり、太子ゆかりのものが多く見られます。かかし公園には高さ12mの太子像が法隆寺に向かって立っています。また、うぶすなの郷TOMIMOTOは人間国宝第1号の近代陶芸家、富本憲吉の生家を イノベーションした体験型宿泊施設です。「うぶすな」とは、生まれた土地の守り神という意味です。



岡崎川の桜並木



飽波神社



極楽寺



かかし公園



うぶすなの郷



安堵町歴史民俗資料館